

NPO法人

112

JAPAN NOW

Non-Profit Organization
JAPAN NOW Tourism Information Association.

観光情報協会

東京都知事が認証した「都市・環境・観光・NPO」が発信する隔月間情報誌

第 112 号 発行日 2017 年 4 月 6 日

Contents

- ・JN協会理事会を開催 1
- ・訪日客2月は過去最高 1
- ・観光列車を見る(2) 2
- ・COLUMN 目の前の大地震〜 2
- ・歳が関通信/カリブ海駆け足旅行記(2) 3
- ・観光と鉄道(3)/NEWSPOT 幕末維新博 4
- ・大使館スタンプラリー 5
- ・アメリカこぼれ話 48/ポピュリズム 6
- ・関西島嶼①/観光立国セミナー 7
- ・気象と天気の話/編集後記 8



熊鷹のくまモン電車(熊本県)のゆるキャラ、「くまモン」のラッピング電車が快走中、地味密着の基本電気鉄道。

JN協会理事会を開催し、予算案、事業計画を審議

総会は5月17日(水)海事センターで開催



JAPAN NOW観光情報協会(大橋慎子理事長)は3月31日(金)、東京の海事センターで理事会を開き、2016年度の決算見込みの報告と2017年度の予算案、事業計画を審議した。5月に開催される通常総会に上程し、承認を求めることを決めた。

海事センタービル2Fで開催された理事会

第15回通常総会は5月17日(水)午後3時から、東京麹町の海事センターで開催される。議事終了後の記念講演の講師については現在交渉中である。講演会終了後は懇親会を開く予定で参加費は無料。

事業計画としては、10月名古屋市中(公社)日本観光振興協会中部支部との共催で観光立国フォーラムを実施する。観光立国セミナーは例年通りほぼ毎月、海事センターで開く。昨年好評であったパキスタン大使館でのセミナーを計画中である。本年度もイラン大使館でのセミナーを計画中である。

その他では会場増強のための提言やHPを充実し、会員の投稿欄の新設や観光関係講師派遣欄作成などの提案がなされた。又、街道(みち)へのJN協会の協力についての報告があり、詳細を検討して、総会でより具体的な案を提案することになった。

訪日外客数2017年でも好調を維持も伸び率は鈍化!

2月の前年同月比は7.6%増の203万6千人
2月としては過去最高

JNTO(日本政府観光局)の発表によると、2017年2月の訪日外客数推計値は、前年同期比7.6%増の203万6千人で、2月としては昨年同月の189万1千人を14万人以上上回り、過去最高を記録した。

旧正月休暇が昨年とは2月であったが本年は1月末に始まったことに加え、うるう年であった昨年と比べて、2月の日数が1日少なかったことなどから、訪日外客数全体の伸び率は一桁に留まった。旧正月休暇シーズンである1月、2月の合算値は、前年同期比15.7%増の433万1千人で、前年同期の伸び率43.7%を大きく下回り鈍化してきた。

継続的な訪日旅行プロモーションの効果の他、航空路線の新規就航・増便、クルーズ船寄港数の増加などが訪日需要の増加に寄与した。

市場別では、昨年伸び率を牽引した中国は、2月の前年同月比2.0%増の509,100人で、クルーズの寄港増で需要を支えたが、旧正月休暇需要が1月末に移行した影響で、5かぶり一桁の伸びに留まった。1月〜2月累計では前年同月比17.0%増であった。韓国は前年同月比22.2%増の60万円で2月として過去最高を記録した。また、インドネシアは、前年同月比49.6%増と50%近い伸びを示し好調が続いている。

3月は、日本の広い地域で桜の開花シーズンを迎えるために、花見を目的とした訪日旅行需要の増加が期待されている。

“観光列車”をみる ②

JR東海相談役 須田 寛

鉄道と観光とのかわり

- ① 鉄道は観光地へのアクセス手段
- ② 鉄道は観光の付加価値を高めるもの
- ③ 鉄道への乗車それ自体が観光対象(資源)となる

上記の役割を果たすとともに③の役割が大きいが“観光列車”のなかで、とくに観光資源として評価の高いもの、話題性のあるものを選んで順次紹介する。

本稿では最新の観光列車のなかから話題作を選んでみた。

(1) “ろくもん”(しなの鉄道-軽井沢、長野間)

テレビドラマの影響で長野県上田、松代、長野方面への観光客が急増している。これを受けて平成28年から軽井沢長野間に新幹線連絡の“観光列車”が発売、話題をよんでいる。“ろくもん”とは上田城主の真田氏の旗印に因んで命名された。正面に家紋をあしらった車体も「真田の赤備え」と同じ深紅色が目立つ。



全車指定席(2両編成)の快速電車で原則として金・土・日・祝日に軽井沢、上田、長野間で運行。長野行き「ろくもん1号」と「3号」、軽井沢行き「ろくもん2号」計3本がある。車内、1号車は「木」をテーマとしたぬくもりのある装いで家族小グループ向けの配置、2号車は景色を味わいやすい食事が楽しめるカウンター席(窓むき)とサロンの座

席が揃う。3号車はカップル向けの個室型の座席となる。全体的に何となく武家屋敷を思わせるつくりだ。「1号」「2号」は食事つきと食事なし(座席予約のみ)の2プランがあり「3号」は夕刻近い時間帯のため食事なしで座席予約のみで利用できる。食事は「1号」は洋定食「2号」は和懐石料理と往復でメニューが変わり地元の有名店による料理が供される。

(予約は、しなの鉄道予約センターと同鉄道主要駅) TVドラマは昨年末で終わったが、この列車は車両検査のため休業する2月を除き引き続き運行される。

(2) “伊豆クレール”

(JR東日本・伊豆急行-小田原、伊豆急下田間) 28年登場、列車名はイタリア語クレッシュノート(大人の意)とトレインを組合せた造語で「大人むき」の列車の意味である。小田原(11時40分発)の下り、伊豆急下田(15時20分発)の上り、毎週末運行所要2時間の指定席列車である。4両編成1号車は窓側むけ展望席(海側)と区分室型ボックス座席(山側)、2号車はラウンジとパークカウンター、3号車は区分室型座席、4号車は特急列車と同じクラウンシートを備える(1、3号車は食事つきのツアーとして旅行社社(びゅうプラザ)で予約する)、4号車は座席指定券を全国のみどりの窓口で購入乗車できる。列車のテーマは「食」「酒」「語り」だそうで美しい景色、食事を楽しむ“大人の列車”を演出する。なお総駅区間(根府川鉄橋、伊豆東海岸)では途中停車サービスも行う由である。



写真提供: 株式会社 交通新聞社

COLUMN 目の前の大地震テレビ中継

近年日本各地で大きな地震が頻繁に発生し、いずれ近い将来首都圏でも地下直下型大地震が起きると予測され内心懸念がたいては拭けない。

1999年8月17日、トルコ北西部を襲ったイズミット地震はマグニチュード7.6を記録し、その犠牲者の数は1万7千名(一説には4万5千名と言われる)を超えた。その翌日古代ギリシャ時代のトロイ遺跡見学を楽しみに近くの古都チャナッカレに滞在中の深夜、突然大きな揺れがきた。その大震災からトルコを離れるために1週間、トルコ国内はどこも増城的な災害の復旧作業のために土を下への大騒ぎで、交通もほぼ停止状態に陥った。近代の高層ビルが、交通もほぼ停止状態に陥った。

istanbulへ戻ると賑やかなホテル周辺も瓦礫を除き去ったもののクレムンがひびきりなしに往来し、その騒音は夜にたまったまま止むこともなかった。近代の高層ビルが次々に倒壊した一方で、中世伝統のイスラム教会モスクや、ミナレット塔はびびりもなかった。避難したアトから

はみ出し雨に打たれて泥まみれになった豪華なトルコ絨毯も、洗えば元に戻る人々は氣にもしていなかった。ホテルの部屋からぼんやり外りの倒壊した建物を見ていて、何気なくNHK・BSテレビにスイッチを入れた途端、そこに映し出された画像が何の惨状とまったく同じだと気がついた。ホテルの前では、何と日本人レポーターがたずどマイクを持ち現場の状況を実況している姿が見えるではないか。荒廃した現場のテレビ画像は、一旦地震現場から日本へ衛星で送られ、即座にUターンされてイスタンブールで放映されたのだ。

レポーターと同じ目線で地震現場の破壊された状況を見つめながら、テレビから聞こえるレポーターの声に耳を傾け、まるで4次元の世界に浸っているような気分だった。

20世紀最後の大地震のせいでも滅多に味わえない臨場感たっぷりの体験をさせてもらった。

エッセイスト 近藤 節夫



観光立国を支える人たち

関口 芳史 氏

新潟県・十日町市長

新潟県・十日町出身。

都立青山高校、東大法学部卒。

82年4月野村証券に入社し横浜支店、イギリスの現地法人などに勤め95年退社。企業の織物メーカーに入社。14年日町助役、三条市収入役などを経て09年5月十日町市長。現在2期目。57歳。

16年11月2日に外国人記者クラブで「十日町の夕べ」ということで市長みずから産地の織物の和服を着て出席して町の観光宣伝をしました。新潟の町がこうした宣伝をするのは珍しいですが、効果はありましたか？

この催しは市だけではなく、一般の人たちにも協力してもらって行いました。明るくじみちの着物を着てのファッションショーをしながら町の人たちがモデルになってくれました。また、食べ物でも地元の人たちが工夫したものをを出しました。市産や地元企業上げての協力を得てきました。市では外国人観光客の誘致に力を入れており、この催しだけでなく国内外の商談会に参加しているほか海外の旅行会社やテレビ局などにも営業活動をしています。外国人記者クラブの会にはたくさん外国人の記者が来てくれて、大いに宣伝になりました。

■市の観光の目玉は何でしょうか？

それは大地の芸術祭「妻有アートトリエンナーレ」でしょう。15年に開催した第6回開催では過去最高の約51万人の人が来ました。経済波及効果は約51億円になり市だけではなく新潟県内にも大きな影響を与えています。2000年から始まり3年に1度の開催ですが第1回展の約16万人から約3倍と右肩上がりに増えています。この芸術祭の催しを引き合いに通年客につなげるために約200点の作品を恒常的に設置しています。大地の芸術祭の里、というブランド作りも行っており春・夏・秋・冬とそれぞれ期間を設けて普段は閉鎖している空き家や座敷などで限定公開し、屋外作品の公開などいろいろな企画を行い内外からの観光客を呼ぶ努力をしています。

■六日町のお米とお酒は全国的に有名で観光資源ですね。

まずお米がおいしいのは3つの理由があります。一つは昼夜の寒暖の差です。十日町を含む魚沼地方は昼夜の寒暖差が大きいです。昼間の高温に対して夜間は温度が低くなお米の味が良くつります。二つ目は豊かな土壌です。十日町は有数の豪雪地であり半年雪で覆われミネラルを蓄えて地が養います。春に熟成された土壌が出来上がります。三番目は豊かな雪解け水があります。

おいしい水がおいしい酒を作ります。市内には松乃井酒造場と魚沼酒造があり20種類の日本酒があります。全国

新酒鑑評会でも何度も金賞を受賞しています。

名物には「へぎそば」もあります。つなぎに海藻の「ふのり」を使っていることがつるつるしたのと越しと腹の強い感触が生み出されている理由です。

経営ジャーナリスト 阿部 和義

カリブ海駆け足旅行記(2)

観光学博士 寺前 秀一

駆け足旅行はまずアンティグア・バーブードに向かった。人口は8万人と宮古島と石垣をあわせた程度である。一人当たりのGDPも1万8千ドルと宮古島、石垣の約200万円とはほぼ同じ。海外旅行者80万人のうちクルーズ船は55万人。しかし、ヨットで来る人が2万人近くいることはカリブ海に近づく英米人の海洋レジャーの層の厚さをあらわしている。航空機客は25万人、米国から8万、英国から7万人とやはり英連邦の国である。平均滞在日数は10日弱、ホテル宿泊者が7割だが、民泊利用者が多い。数では比較すれば、石垣到着観光客数が約100万人、宮古島が約五十万人だから、先島諸島のほうが恵れている。

到着後の宿までは、空港付近の宿にしたのでGoogleマップ片手で徒歩で向かった。歩く人がいないので、車が危ないのは日本の離島と同じ。各家の庭に犬が飼われていて、吠えてくるところが沖繩と違う。

宿では夜中に目覚ましをかけておいた。夏時間の処理がスマホでどうなるか確認する現地だ。2時になった直前に1時になった。スマホの画面表示は現地の表示がなされるので問題はないが、スマホの内部に掲載される世界時計の各地の表示は従前のままであった。一度で済まない変化しないのはプログラムミスなのであろう。入歩計は混乱している。

次にハマ諸島のナッソーへ入国した。面積140万haはジャマイカより大きいのが小さな島を合計したものである。国の人口は40万人と小さく、国民一人当たりの年間所得は2.5万ドルである。カジノ収入があるからだ。年間140万人近い海外宿泊客のうち8割弱はアメリカ、交通手段は110万人が空路である。従ってクルーズ船の目的地的としては大きくないが、観光収入は大きい。

次にアメリカを経由ジャマイカに向かう。ナッソー空港で搭乗前に米国の入国手続きが機械でできた。日本も中国人旅行者が増えたら北京、上海に日本への自動入国機を設置しておかないと処理しきれないだろうが、現在の政治状況ではそれも時間がかかりそうである。アメリカという巨大国と周辺国だからできたのかも知れない。

観光と鉄道(3)「熊本電気鉄道株式会社」



熊本電気鉄道株式会社

前代表取締役社長 吉田 朝彦 氏

昨年4月に発生した熊本地

震は創業107年の熊本電鉄には勿論初めての経験でした。壊滅的な被害のあった益城町に比べ市の北部を走る熊本電鉄は比較的軽微でしたが、レールやホームの損傷、本社、関連施設を含めて約1億円の損害がでました。しかし社員素早い対応により路線バスは翌日、鉄道は1週間後には早期復旧しました。

こうした震災がなくても地方鉄道の経営は厳しく、熊本電鉄も鉄道を含む交通事業は継続的に赤字の状況が続いてきました。そうしたような需要の伸びない交通事業の底上げを図るべく注目したのがインバウンド旅客です。

なかでも阿蘇くまもと空港に直行便をもち高雄・熊本週3便(便数)九州に年間七十数万人が訪れる台湾に特に注目。社内にインバウンド手配センターを設置、昨年6月には高雄に現地事務所を開発し国外旅行社との密な情報交換、積極的なPR活動を開始しました。

一方鉄道事業も増収の地鉄道を観光資源として活用する企画をいくつか立ち上げましたが、その一つが昨年引退した通称青丸エール(5000系、ハチ公前の車両)の運転体験

イベントです(引退以前は運行している全国唯一の車両でした)。

運転の講習を受け、実際に運転席に座って駅構内を運転できるこのイベントは全国からの参加者を集め、鉄道マニアには大人気のイベントとなっています。また一つがくまもんラッピング電車PRです。特に台湾・香港を中心にくまもんバンドお客さんがあり1か月あたり約3000名にご乗車いただいております。最近では台湾の大手旅行社から通常運行便の乗車ではなく、くまもんラッピング電車のチャーターが出来ないかという要望を頂いたことをきっかけに観光ツアーに組み込んだチャータープランも開始しました。

こうした鉄道事業継続のための各種企画を作り増収を図っています。また熊本電鉄の将来は熊本市電(市営路面電車)との結節を計り、富山地方鉄道と同様なLRT(ライトレールウェイ・トランジット)化の実現にかかっています。

熊本LRT市民研究会(NPO法人)など市民の熱心な支援の力を受けて、官民協力の下実現に向けて進んでいきたいと考えております。



NEW SPOT in Japan 61

幕末維新博

高知県は3月4日オープン。県立高知歴史博物館をメイン会場に「志国高知 幕末維新博」を再来年2019年3月末まで2年間開催する。四国を志国というたい、幕末から明治維新にかけて坂本龍馬ら多くの若者の志士を輩出した郷土時代は土佐の山間よりをテーマに、京や江戸から遠く離れていながら自由民権運動に関わっていく姿をたどる。メイン会場に加え、県内の志士ゆかりの歴史文化20施設を選んで地域会場と土佐の風土・文化・食・自然の魅力をふんだんに観光入り込み数の底上げを目指す。

今年には江戸幕府が政権返した大政奉還から150年にあたる。博覧会第一幕は幕末維新開国の書状や土佐藩主内家に伝わる美術品など収蔵約6万7千点から未公開を含む資料をメインに展示する。2日目の18年春に始まる第二幕は全国の龍馬ファンの聖地ともいわれる高知市桂浜の県立坂本龍馬記念館(17年4月から1年間休館)の新館開館に合わせてメイン第2会場とし豊富な写真や資料で龍馬の生涯を繰り広げる。

地域20会場はいずれも土佐の歴史に幕末維新の息吹を感じる施設だ。県東部の安芸・空戸エリアは龍馬園友



「中岡慎太郎館」(北川村)、三菱創業・岩崎彌太郎の故郷「歴史民俗資料館」(安芸市)など5カ所。県史は高知市の山内一豊の「高知城」、「龍馬の生れたまち記念館」、板垣退助ゆかり「自由民権記念館」、県立「美術館」(文学館)、香南市の絵師展示「絵金蔵」、いの町「紅の博物館」、佐川町の幕末資料「青山文庫」など10カ所。県西の四万十・足摺エリアは幕末渡米の「ジョン万次郎資料館」(土佐清水市)と脱藩先駆け志士「吉村虎次郎邸」(津野町)、脱藩の道「橋原町」(千百年物語)など5カ所。筆者はまだまだ地域会場を回り切れていないが、JRなどのフリーきっぷや路面電車の一乗車券、周遊観光「路線バス」などを駆使して、志士たちの足跡20カ所をすべて訪ねてみたい。

文・写真 林 莊祐

今年も「港区ワールドフェスティバル2017開催」

「大使館等周遊スタンプラリー」は期間延長し参加大使館数も増加!

3月23日水曜日、東京新橋駅SL広場で開催される「港区ワールドカーニバルプレイベント」の準備でお忙しい中、会場の一角でこのイベントを担当されている港区産業・地域振興支度産業振興課シティブロエーション担当係長の嶋田文部さんに、今年で3年目を迎えるこのイベントについて話を伺った。



撮影の港区ワールドカーニバルプレイベント会場(午後6時15分頃)

本日の「港区ワールドカーニバルプレイベント」は、3月26日曜日に東京タワーで開催される「港区ワールドカーニバル in 東京タワー」を告知、PRし、集客するのが目的で、ガナへの伝統音楽やウズベキスタンダンス、ペリウダンスなどが披露される。

普段は入れない港区内の大使館等に入館できる楽しいイベント「港区大使館等周遊スタンプラリー」は好評で区外からの問い合わせも増えたり、今年は開催期間を3月20日から2日まで延長した(昨年は3月4日に終了)。参加大使館等も昨年の32から、今年は33の大使館と2施設(台北駐日経済文化代表処と国際機関 日本アセスンセンター)の合計35大使館等に増加した。又、本年からスタンプラリーに参加した大使館の1つに中国大使館があり、事前予約できた参加者には、大使館でお茶や春巻き、ごま団子が提供された。

「港区商店街ワールドカードラリー」の参加店舗も100店から117店に増加し、各国の地理や文化、歴史などを毎週

会員新刊本紹介



「絶家を思う」

中世、四国の雄だった「長宗我部(ちやうそがべ)」一族の十七代目当主・友親(ともちか)氏の近者。友親氏は、JN協会の機関誌に「城下町と観光」を連載していた。この本は、後継ぎがいない同氏が、長宗我部家が消えてしまう(絶家)ことを恐れ悩む心境を述べることも、一般の家庭にもある課題として、考えるきっかけを与えてくれる。

ほかに、多くの友人との交友録的なエピソードも盛り込まれ、大変読みやすく仕上がっている。(加納)

観光立国 第132回観光立国セミナー 講師: 藤村 喜章 氏 タイ国政府観光庁マーケティングマネージャー
セミナー予告 4月14日(金) 12時より 演題: 「タイ国政府観光庁が行なっていること」(仮題)

会場 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル2F会議室

HPにて出題する「港区ワールドクイズラリー」は問題数を7問から10問へ増やした。

3月26日の日曜日に開催される「港区ワールドカーニバル」は、会場を昨年の増上寺から東京タワーに変更された。

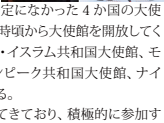
今年からこの「港区ワールドカーニバル」は「beyond2020プログラム」として認識され、ロゴマークの使用が許されている。

来年は「港区ワールドフェスティバル」全体の認定を目指している。beyond2020プログラム フォグマークのロゴマーク

今年から経済産業省の主導で始まった2月24日の「プレワールドツアー」には、当初予定になかった4か国の大使館から特別協力を頂き、午後3時頃から大使館を開放してくれた。協力を頂いたのはイラン・イスラム共和国大使館、モルディブ共和国大使館、モザンビーク共和国大使館、ナイジェリア連邦共和国大使館である。

港区のこのイベントも定着してきており、積極的に参加する大使館も増えている。今後は、さらに多くに大使館に参加を期待しており、大使館等周遊スタンプラリーの参加が難しいならば、港区ワールドカーニバルだけでも参加してもらえたらと考えている。

今後も「港区ワールドフェスティバル」を継続し、観光客の増加を地域活性化に繋げて行きたい。



須田副理事長、長宗我部参与が新刊を出版



「日本の観光きょうい・いま・あす」

一現場からみた観光論—
産業観光・街道観光・都市観光等新しい観光を提唱してきたJR東海須田相談役の新刊。主に観光を含む営業関係の部門に携わっている筆者が実務者からみた観光の今の動きを記述することから今後に向かって発展していく観光の姿を描いている。観光客も観光地側もお互いに「観光するところ」をもって一体化する。それが、今後の地域づくりの基盤、と強調もしている。観光問題の第一人者の言葉満載の本である。(堤)

アメリカは48 「在任一ヶ月の大統領」



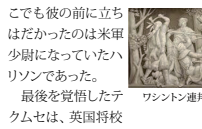
元 JTB 取締役 北村 篤

アメリカ人は何事にもレイティング、すなわち順位付けをするのが好きで、歴代大統領の「偉大さランキング」を定期的に発表している。数万人の学者へのアンケートを纏めたものである。その中で発表発表のものも時期を問わず第1位はリンカーン、2位がワシントン、3位 F・D・ルーズベルトであり、最下位はハーディングとグラントになっている。これらのアンケートでいつも評価の対象外になる大統領がいる。9代目のウィリアム・ヘンリー・ハリソンと20代のジェームズ・A・ガーフィールドである。在任期間が短くて評価出来なからである。W・ハリソンはヴァージニアの大農園主の息子として生まれた。父は初代のワシントン大統領の親友で独立宣言にも名を連ねる名家の一である。陸軍に入ったハリソンは一躍有名になったのは、



ヘンリー・ハリソン 1794年に起こった「落木の戦い」であった。合衆国政府軍の若き将校としてマイアミ連合(オハイオ川流域のインディアン諸族の連合)を打ち破るという際立った成果をあげたためである。この時、インディアン連合が目立つ活躍をしたのは、後にショーニー族の若き首長になったテムセムである。

敗戦後、10数年をかけ、カナダからフロリダまでのインディアンの大連合を呼びかけて組織化し、その最後の脱得のために南部に向かった。その間にハリソン率いる合衆国軍が、テムセムの留守部隊を襲撃し、壊滅させた。1812年に始まった米英戦争では、テムセムは英国正規軍の准将に任じられ活躍した。ここでも彼の前に立ち上がったのはハリソン少尉になっていた米ハリソンであった。



最後に覚悟したテムセムは、英国将校の軍服を捨て、インディアンの正装に身を固めて、宿敵ハリソンに絶望的な戦いを挑み、銃弾に撃たれたのである。戦後ハリソンはオハイオ州で連邦下院議員、上院議員、そして南米コロンビアの駐在外公使など歴任する。

1840年の大統領選にはホイッグ党から立候補した。対メキシコ戦争を回避するため、テキサスの併合に反対して大衆に評判の悪かった対抗馬のヴァン・ビューレンを破って当選した。彼が68歳のときで、後にロナルド・レーガンが69歳で大統領になるまで、最高齢の大統領であった。当選で振り切った彼は、厳冬の3月の大統領就任式にコー



テムセムの想像図 写真:wikipedia

トも手袋もせずに、歴代大統領の就任演説では最も長い1時間45分の演説を行った。それがもて風邪をこじらせて肺炎を併発して就任一ヵ月後に死亡した。その結果、アメリカ史上初めての副大統領から第10代大統領へ昇格したのがジョン・タイラーである。

前、20代のガーフィールドは第4ヶ月足らずで、ワシントン駅で暗殺されてしまった。犯人は大統領選挙応援の見返りに官職にありつこうとしたがうまく職にありつかなかった失意の男であった。

ポピュリズム

小田急電鉄(株)特別社友 利光 國夫

最近「ポピュリズム」という言葉がよく使われている。「大衆迎合主義」と訳されているが、概して否定的な意味で使われているようだ。昨年の英国でのEU離脱派の勝利と、米大統領選でのトランプの勝利についての報道でもこの語がマスコミを賑わしている。私は一年前からトランプ勝利の可能性がかなり高いと言ってきたが、元外務省のN氏や外務省OBを始め元高級官僚、経済人諸氏の殆んどは「利光さん、それはまずありませんよ」と言ってきた。

私が予想した根拠は、一見粗糲のように見えるトランプの言動をよく分析するとかなりの部分的を射ており、現在の米国社会の底流にある不満や苛立ちを代弁していたからだ。そもそも選挙に依る議会制民主主義という本質的に大衆への迎合を包含しているものだ。

私は長年にわたってトランプを研究してきたが、ヒトラーとナチスこそ「ポピュリズム」の確立と云えるのではなくる。勿論トランプとヒトラーを同一視するのは大間違いだが、社会の底流にある既成政治が頼みない不満や苦みなデマゴグを捌き取るという点では共通している。

歴史を振り返れば極右も極左も「ポピュリズム」の産物であること、議会制民主主義はひとつ間違えたら自らを破壊する要因を常に包含していることを忘れてはならないだろう。

JAPAN NOW
では会員を
募集中です

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

地域の鉄道観光を応援する「観光と鉄道」、世界各国の大使館で開催する「大使館セミナー」等、新しい企画も始まりました。観光振興にご参加、お待ちしております。

■年会費
個人会員(1口5千円から) 団体会員(1口5万円から)
お問い合わせ先 JAPAN NOW 観光情報協会
電話: 03-5989-0902 FAX: 03-5989-0903

「関西最前」①

元日本航空副社長 横山 善太

昭和18年秋、疎開先の千葉県鶴舞町は米軍上陸の恐れ有りと言ふことで、その頃大阪浜寺(堺市の少し南、白砂青松の地)を住処としていた母方祖父に身を寄せることとなりました。が内村などにこそ空襲に慣れ慣れ野原。その後再び疎開は奈良の吉野に近い山奥。学校の手続きの帰り路、峠の茶屋で「終戦の訃報」がありました。

短い間ではありましたが鉄道の駅構内の鉄骨の曲り、250発の焼夷弾、全焼した我が家の焼跡の臭い、耳にもわりつ響報音、これ等強烈な関西の思い出は深く私の幼心に刻むこととなり、才2歳の娘となったのだと思います。

筋金入りの阪神ファンであり、中学・高校・大学と折々関西を訪ねること度々でしたが何と云っても1991年夏、仕事の役割で西日本地区を担当、大阪支店長を命ぜられる機会に恵まれたことです。子供が大きかったことも有り7年間週末を含め関西に土着し、多様な「関西」を経験することが出来ました。これが関西最前の人手です。必ずしもカネとモノの文化ではないのです。

大阪に赴任する前に大阪関西西地域に精通した先輩が伝えて呉れた話がありますので先ずその紹介から始めたいと思います。

京都の老舗大店のご隠居様にも係る話です。会社が海外17支店で、お客様に不作法な振舞があったので、大阪支店が代ってお詫びに行くこととなり関西に理解

観光立国セミナー 会場:海事センター

「地域活性化の鍵 LCCと二次交通」 岩村 敬 氏
第130回(2月10日) 元国土交通省事務次官

爆発的なインバウンドの増加に注目が集まっているが、日本人の宿泊観光は減少しており、国内旅行の目標数値も無くなっていく。このままでは地方人が増えても、大手資本や外国企業に美味しいところを持って行かれ地元は潤わない。地方の観光地が振るわらない原因は、国内長距離移動手段の競争がなく運賃が高い、LCCの参入も国内線では不十分、個人・グループ旅行の外国人客が増加している個人手配が整っていないがローカルパスの国内客対応が不十分で二次交通の整備が必要、などが挙げられる。又、ネット社会への観光業界の対応もバラバラで統一されていない。切符売り場、運賃対応、案内所など運輸機関の現場では苦戦が続いている。

地域活性化のためにも多くの運輸機関が周遊・回遊パスを発行しているが、外国人の視点に立っておらず難解になり、地域全体をカバーする横断的な周遊パスを発行し、外国人向けにネット販売の取り組む努力が必要である。活性化の鍵は、LCCと二次交通の整備である。LCCの国内線におけるシェアはまだ10%足らずだが、これを広げることでより新規需要の創出効果が期待できる。

のある部長さん、若手社員を伴ってお訪ねしたところ、「今回の件はお宅はんが無礼な話や。わて(私)は納得できまへへのお取り下ささい。と、けんはほろろありました。引き返す時ペレタン部長さんが、ご隠居はんは吾々の手土産(受け取らなかったが)に眼線があったので好物がある番だから勝手に箱に書いて開き出して来いと若手社員に命じ、早速その好物を携えて再びお訪ねしたところ、「私の好物は良くお調べに成りましたネ、お宅はんの不始末を謝りに来られるのであれば、そのうちのひとつは当然だと思います。誠意を見せて頂いたのとお聞は納得致しますよ」との御返答で1件落着きとなりました。

もう一つ奈良の親分の方、これもお客様に対する不始末をお詫びするためお訪ねに当り8時間間に合わせず遅れてしまいました。書生が応対し「連絡いただきましたが主も予定がありますので本日は出掛けまして居ります。(出掛け様子は無いのだが)」とのことでした。そこで果敢なく翌朝ホテルに運ばれることのない様午前5時頃お屋敷の駐車場へお待ちすることにしたのです。7時頃お会いしましたように連絡。「よう遠いところ早朝に来られました。5時頃朝に2時間お越しになってる事に気付きました。御鄭重な敬意恐縮に免じ、今回の件は鞘に取れまふ。このことで解決致しました。「大阪」の受け止めはモノでもカネでもなく気持ちです。「誠意」「敬意」に共感したもののです。大切なはそのことが目に見えて分かり易いことだと思います。浪花情、人情話が目に見えるところが重要なです。

元手が尽きるまで連載したいと思います

「私が訪れた国々」 平塚 和美 氏
第131回(3月10日) 元TBSトライメディア取締役

友人や家族と、個人旅行で訪れた国々での様々な体験談を女性の目線で披露された。1992年に学生時代の友人と「何処か行きたい」と話し合い、ウイーンに旅行と決めたのがきっかけである。西洋絵画が好きで美術館訪問を希望する私と、西洋史を専攻した友人とで一致し、ドスタエフの時刻表を見ながら3か月前から計画を練り始めた。これ以降の旅行も含めて移動は基本的に「ユレイルパス」や「スイスパス」など鉄道を使用した。

大都市のターミナル駅は、駅そのものが魅力的で、どの都市でも観光は駅から始める。各市の旧市街をインフォメーションセンターを利用すると便利である。女性の個人旅行なので常に安全に気を遣うが、女性ゆえに荷物などに手助けしてもらい得ること多い。

欧州では英語はマイナーでなかなか通じない。何故か、何処でも東洋人の私たちに道を尋ねられることが不思議である。鉄道の運行が比較的信頼出来るドイツやスイスと違い、フランスやスペインではトラブルに巻き込まれることもあったが、女性の個人旅行を楽しんでいる。

冬の気候 お花見は寒暖差に注意

季節はもう春。待ちに待ったお花見シーズンの到来です。桜の開花の便りは例年、九州から関東は3月中旬下旬、北陸や東北南部は4月上旬、東北北部は4月中旬～下旬、北海道は5月の大型連休頃に届きます。その後地域によって多少差はあるものの、一週間前後で満開を迎えます。日に日に春めいてきますが、お花見の時期は寒暖差が大きいので服装にご注意下さい。2016年の桜の開花～見頃の時期における東京の最高気温と午後9時の気温を見ると、日本中の最高気温は平均して15～17度で、春のコートで丁度良いくらい。20度を超えた日もありました。ただ、夜はこの時期まだ寒く、昼から10度以上

ダウンする事もあります。ライトアップされた夜桜を楽しむ方も多いんじゃないでしょうか、春の楽しみは楽しむので、マフラーやストールなどで上手に調節なさって下さい。日本気象協会では [tenki.jp](http://www.tenki.jp/) (http://www.tenki.jp/)にて「**桜は生命力が強い**」と「**桜は寒暖差が大きい**」という2つのグラフを掲載しています。桜の開花情報等提供していますので、ぜひご覧下さい。

日本気象協会 平出 真有

特別顧問	丹羽 辰 (元理事長、日本空港ビルディング顧問) 丸山 博 (元国土交通審議官) 本保 芳明 (初代観光庁長官)
理事長	大島 慎子 (筑波学院大学学長)
副理事長	岡村 進 (元小田急トラベル社長) 横山 善太 (元日本航空副社長) 須田 寛 (東海旅客鉄道相談役) 加納 隆 (元朝日新聞経済部記者)
事務局長	杉 行夫 (理事) 事務局長次長 堀 り (理事)
支部長	須田 寛 (中部) 魚尾 隆彰 (北陸) 長尾 亜夫 (九州) 羽田 弘三 (神戶) 梅原 利三 (四国)

団体会員	株式会社アルビオン 医療法人社団同友会 一般財団法人NHKインターナショナル 株式会社えんいしゃ 小田急電鉄株式会社 関西電力株式会社 九州旅客鉄道株式会社 社団法人くらしのりサーチセンター 株式会社グリーン工業 株式会社群人舎 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 三普旅行社有限公司 四国旅客鉄道株式会社 新築熱工業株式会社 住友電設株式会社 セントラルリビングシステム株式会社 大成建設株式会社 大成設備株式会社 大成有楽不動産株式会社 株式会社丹舟社 第一交通産業株式会社 株式会社ダエウーコンサルタント 中国電力株式会社 西部(東海・北陸・四国)広域観光推進協議会 東海旅客鉄道株式会社 東急建設株式会社 財団法人東京観光財団 日本観光株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 公益社団法人日本観光振興協会中部支店 日本空港ビルディング株式会社 専門学校日本ホテルスクール 羽田旅客サービス株式会社 株式会社パロックスジャパンリミテッド 広島電鉄株式会社 福岡空港ビルディング株式会社 北海道空港株式会社 株式会社ホテル小田急 ホテルモリタリゾート マイナホールディングス株式会社 株式会社まるまんじョーレ 三菱電機株式会社
------	---

特定非営利活動法人 (NPO)

JAPAN NPO 観光情報協会

東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル555 〒160-0023
電話 03(5989)0902
FAX 03(5989)0903
E-mail info@japanpo.org
http://www.japanpo.org/

発行人:大島 慎子 (NPO協理兼社長)
編集長:北村 崑 (NPO協理事)
発行部数:3,000部
主な配布先:民間、官庁、地方自治体、市民企業、マスコミなど

編集後記

2月の観光立国セミナーで講師の元国土交通省事務次官岩村敬氏が「地域活性化の鍵-LCCと二次交通」で講演の中で、地方観光地救済の一助として十和田湖について触れた。講演後、数十年前の十和田湖観光地の賑わいを経験している小生は、長い間「無沙汰している十和田湖観光地の現状がどうなっているか?」と疑問を抱いていました。そんな折、偶然、十和田市観光推進課から講演依頼が来た。趣旨は、最近増加している外国人観光客に対応するボランティアガイドさん達に、インバウンドの現状と課題についての話を、とのことである。3月末に現地を訪問し、久しぶりの講演後に奥入瀬渓流船で一泊することにした。▼十和田市もこれからは観光振興にとってインバウンドが欠かせないという問題意識を持っており熱意が感じられたが、今回の滞在経験で、現地の受け入れ態勢はまだ十分に整っていないのが実情で感じられた。▼出発前に旅館を予約したけれどインバウンドでは現金で支払うと言われた。近くの土産物店や飲食店でもカード払い不可のところが多い。現金を余り持ち歩かない外国人を受け入れるにはカード利用可能な観光関連施設を増やす努力が必要である。▼十和田市での講演が4時に終了してバスで登山へと考えていたが、本日はもうバスは終了した事で、タクシーで40分かけて移動した。外国人観光客ならどうするだろう。翌日はバスを3回乗り継いで新幹線の7対十和田駅にたどり着いた。岩村氏も述べたように、2次交通ローカル路線バスは全く外国人観光客の対応としておらず、表示やアナウンスの外国語も一切ない。初名、発着や車内の精算もカードはダメ。おまけに車内では千円以上の札は拒否不可。何んか、勇気を持って観光客(外国人)にも対応を取れない。せめて東京の地下鉄のように乗降時に番号や記号による観光客の停留所へ降りることが出来るのではないか。▼インバウンド4,000万人の目標を達成するには観光客の地方への誘導が不可欠である。そのためには自治体と地元観光業者が連携して目標を達成から一つづつ着実に体制を整えていくことが大切である。(北村)